

あんなこと、こんなこと

関市イメージキャラクター
「関☆はもみん」



7月16日～31日にあった
市内の話題を中心に
ご紹介します。

健闘!関商工野球部

7月28日、岐阜市の長良川球場で行われた第94回全国高校野球選手権岐阜大会決勝で、関商工高校は惜しくも1-2で県立岐阜商業高校に敗れました。甲子園出場は果たせませんでしたが、2年連続で決勝戦まで進出し、堂々の準優勝。粘り強い守備で、最後まで元気なプレーを見せた選手たちに、観客席から惜しみない拍手が送られました。強豪校を相手に堂々と戦い、今年も多くに関市民に感動を与えてくれました。



復興願いボランティア学ぶ

小学生などを対象としたボランティアスクールが開かれました。社会福祉協議会職員から、被災者を助けたり、元気づけたりする災害ボランティアの活動について説明を受け、自分たちが今できることを学びました。被災地に向けて「とびだすメッセージカード」を作り、2つ折りの厚紙に切り込みや折り目を付け、色紙を貼って作品を完成させました。「がんばれ」「まけないで」など手書きを添え、復興を祈っていました。



勤労観を身に付けました

関商工高校の総合ビジネス科では毎年、2年生生徒全員が夏休みを利用して、3日間のインターンシップ(職場体験)を実施しています。このうち、吹奏楽部の生徒23人がふるさと農園美の関(大杉)で農業体験学習をしました。ブルーベリーの摘み取りやトウモロコシの収穫のほか、畑の草取り、いちごハウスの床掃除、販売店舗周辺の清掃などをしました。体験を通し、働くことの大変さを実感していました。



地域委員会のあり方を考える

地域委員会の設立や運営の参考にしようと、地域づくりを先進的に取り組む団体の話を聞く市民勉強会が開かれました。事例発表として、発足の経緯や活動状況報告のほか、団体の特徴や地域住民の巻き込み方、活動の意義や成果、目標などが語られました。「何でも自分たちで変えられるという意識が大切」などの意見が出され、参加者は「住民目線の取り組みと考え方、今後の活動の参考にしたい」と話していました。



真っ赤な炎に無病息災祈る

下之保戸丁地区に古くから伝わる夏恒例の「たいまつまつり」が行われ、たいまつを焚いて1年間の無病息災を祈願しました。地区の各世帯から松や樫の木などで手作りしたたいまつを2～3本ずつ持ち寄り、神社に通じる約100メートルの道路脇に、ずらりと掲げていきました。夕暮れ時、のどかな田園風景を真っ赤な炎が連なり、厳かな雰囲気の中、たいまつに向かって手を合わせ、家族の健康を祈っていました。



子の健康と良縁を願って

春日神社（南春日町）で伝統の祭礼「天王まつり」が行われました。別名ちょうちんまつりとも呼ばれ、市重要文化財の能舞台で開かれる、夏の風物詩といえる行事です。竹の小枝に付けられた小さな提灯に、子どもの名前を書いて神前に捧げ、男子と女子の提灯を交換。付き添う親が、子どもの健康と将来の良縁を祈願しました。浴衣姿の子どもたちは、交換した提灯を手に、境内に飾られた燈花会を楽しんでいました。



エンジョイ!イングリッシュ

市国際交流協会の主催で、夏休み中の小学生を対象とした英会話講座が市役所で開かれました。参加児童約30人が歌やゲームなどを通して、楽しく英語を学びました。市AET（英語指導助手）の指導で、動物の名前や鳴き方を英語で覚えたり、手の指に絵を貼り付けて、家族の名前を繰り返し発音するなどしました。初めて英語を習った児童も積極的に大きな声を出して、楽しく英語に親しんでいました。

こぼれ話

連日（7月末時点）、猛暑が続いていますね。私も昼間は、外には出ずにずっと室内にいたい！そんな気持ちですが、そうはいかず・・・平日、休日問わず取材に出かけていきます（＾＾）

先日、市内保育園を訪問し、夏の風物詩である「すいか割り」の取材をさせていただきました。公式ルールもあるようですが、基本は目隠しをして、棒を持って、周りの声による誘導で、すいかを探して割る。簡単そうに見えても意外と難しく、なかなか当たりません。子どもたちも悪戦苦闘しながら空振りが続きました。すいかにひびが入ると、疲れていた子どもたちは勢いよく立ち上がり「次やりたい！」「代わって！」と一気に大興奮。自分が割りたいくずくずした様子で、最後にはしっかりと割ることができました。割ったすいかは、きれいに三角に切り分けられ、皆でおいしく頂きました。夏にしかできない貴重な体験で、子どもたちの満足そうな笑顔がとても印象的でした。

まだまだ暑いですが、今後も市内のイベントが盛りだくさんです。皆さんも熱中症に気を付けながら、夏を満喫してくださいね。

